

服部宇之吉

（はつじゆう）

漢學者、文學博士。慶應二年四月二十日薩英國一

本松生れ、昭和十四年七月十一日歿（八六七一—九三九）。號隨軒。明治一

十二年帝國大學文科大學哲學科卒。第三高等中學校教授、高等師範學

校教授を經て、二十年文部大臣祕書官兼文部省參事官、次で帝大文科

大學助教授となり、三十一年清國留學。翌年義和團の亂勃發、二十一月

餘の北京籠城後、日本軍守備地整理委員となつて亂後處理に當り、年

末ドイツ留學。二十四年華義戰功に依り敘勳、翌年フランス共和國政

府、ロシア皇帝から叙勳。歸朝後東京帝國大學文科大學教授、また

聘せられて北京大學堂師範館主任教授、大正五年からはハーヴァード大

學教授歴任。この京城帝國大學總長、國學院大學總長、東方文化學院

理事長等々を務める。帝國學士院會員。漢學界の權威として斯學に關する

著述多く、辭典等の編纂にも盡力。

『北京籠城日記』（大正十五年七月五日自刊）、『孔夫子の話』（昭和

二年十一月十五日京文社）等の他、『服部先生記念會誌』（昭和二

年十月二十日服部先生記念會）がある。

